

令和7年度 施策評価シート

施策の大綱	3. 交通拠点性を生かした都市活力の向上	評価担当者
基本施策	(5) 広域的な交通拠点性の強化	政策部長 藤尾 春樹
目指す姿	市内外の人が、高速交通ネットワークを活用し、広域的な交流・連携を行っています。	
関連する分野別計画		

SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	11 住み続けられるまちづくりを 	17 パートナリーシップで目標を達成しよう 
SDGs推進の考察	人々に安全で便利なアクセスを提供し住み続けられるまちづくりに資するため、リニア中央新幹線の早期全線開業と「リニア三重県駅」の誘致に向けた取り組み、さらには、鈴鹿亀山道路や関連する国道306号川崎庄内バイパス等の事業推進による広域道路網の整備を促進する取り組みを進めることができた。また、その実現に向けては、関係機関や官民一体の期成同盟会等の組織とのパートナーシップ関係による連携した取り組みが図れた。今後も、更なる官民一体による整備促進に向けた取り組みを強化していく必要がある。	

■関連する主な事業

(単位:千円)

[illegible]

太字：主要事業

■成果指標

	指標	単位	現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	リニア中央新幹線・JR複線電化推進亀山市民会議の会員数	会員	72	R2	72	74	75	76	80
2									
3									
4									
5									
6									

■市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察 (令和6年度施策評価内容を参考記載)
1	高速道路網が整備されている	重要度	1.05	1.11	1.14	鈴鹿亀山道路の事業化等により、高速道路網に対する市民の重要度が増加している。一方、リニア県期成同盟会における本市内におけるリニア県内駅候補地の決定等により、リニア誘致が新たなステージに入ったものの、リニア駅誘致の機運の高まりに対する市民の重要度・満足度が低下しているため、一層、機運醸成を図るための取組が必要である。
		満足度	0.75	0.79	0.74	
2	リニア市内停車駅の誘致の機運が高まっている	重要度		0.47	0.25	
		満足度		△ 0.15	▲ 0.47	
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				
		満足度				

■施策推進〔施策の方向〕

施策の方向	施策推進に関する考察
① リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進	リニア基金の計画的積立により目標額である20億円に達し、財源確保につなげることができた。また、県等関係団体と連携を図り、機運醸成のためのイベント出展等を実施した。
② 広域道路網の強化	新名神と鈴鹿亀山地域の幹線道路整備を進める会が主催の鈴鹿・亀山みちフォーラムが開催され、基調講演、意見発表、パネルディスカッションを行い広く周知が図られた。
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

リニア中央新幹線市内停車駅誘致の推進については、三重県等関係団体と連携しながら、早期全線開業と「リニア三重県駅」の誘致活動を展開する中で、リニア亀山市民会議において制作したジオラマを活用した市役所及び図書館でのPR展示や、夏休みリニア親子学習会等の開催を通じて、リニア世代の子どもたちを含む幅広い世代へのPR活動が展開できた。また、「リニア中央新幹線亀山駅整備基金」の計画的な積立てにより、令和7年度末には積立目標額を超える積立となり、リニア駅周辺整備に向けた財源確保が図れた。こうした中、建設主体であるJR東海においては、環境影響評価における当該駅候補地内でのボーリング調査が市内で進められるなど、名古屋以西区間も着実に取り組みが進められているとともに、三重県において策定に向け検討を進められた「みえリニア戦略プラン（仮称）」の検討組織に本市も参画し、意見反映に努めた。しかしながら、市民アンケート調査結果では、リニア駅誘致の機運の高まりに対する市民の重要度・満足度が低いことから、リニア誘致が長期にわたる国家的プロジェクトではあるものの、更なる機運醸成を図っていくため、市民の関心度や期待等を高められる取り組みを積極的に実施していくとともに、市内停車駅誘致の波及効果を生かしたまちづくりの方向性の検討に関係機関とともに進める必要がある。一方、広域道路網の強化については、鈴鹿亀山道路の早期整備に向け、用地取得や道路設計等が進められるなど、県と連携した取り組みを促進した。また、当該路線の早期整備と関連する国道306号川崎庄内バイパスの事業推進については、建設促進期成同盟会と連携し、国等へ要望を行ったほか、国道1号関バイパス等の道路ネットワーク整備についても、国・県と事業調整を行うとともに、国等に対し早期整備に向け要望を行った。今後も引き続き、広域道路網の実現に向け、関係機関と連携した取り組みを進める必要がある。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

リニア誘致は、最速2037年の全線開業を目指す長期的な国家的プロジェクトであることを踏まえた上で、先行区間の建設動向や開業時期等を注視するとともに、名古屋以西の概略ルート・概略駅位置の公表時期等を見据えながら、市民の盛り上がりが続けられるよう、リニア亀山市民会議の裾野拡大をはじめ、市民の関心度や期待が高まる取り組みを積極的に展開していく。また、名古屋以西の駅位置決定後の駅周辺整備を見据え、リニア基金の積立て目標額の見直しを検討していくほか、三重県が令和8年度中の策定を目指し検討を進める「みえリニア戦略プラン（仮称）」への意見反映に努めつつ、リニア駅を生かしたまちづくりの方向性について検討を深めていく。一方、広域交通網の強化については、引き続き、新名神高速道路の三重県内区間の6車線化をはじめ、鈴鹿亀山道路と国道306号川崎庄内バイパスの早期整備とインターチェンジの設置、さらには、国道1号関バイパスの事業化区間の早期建設と全区間の事業化等について、国・県に要望活動を行い、その実現を目指していく。